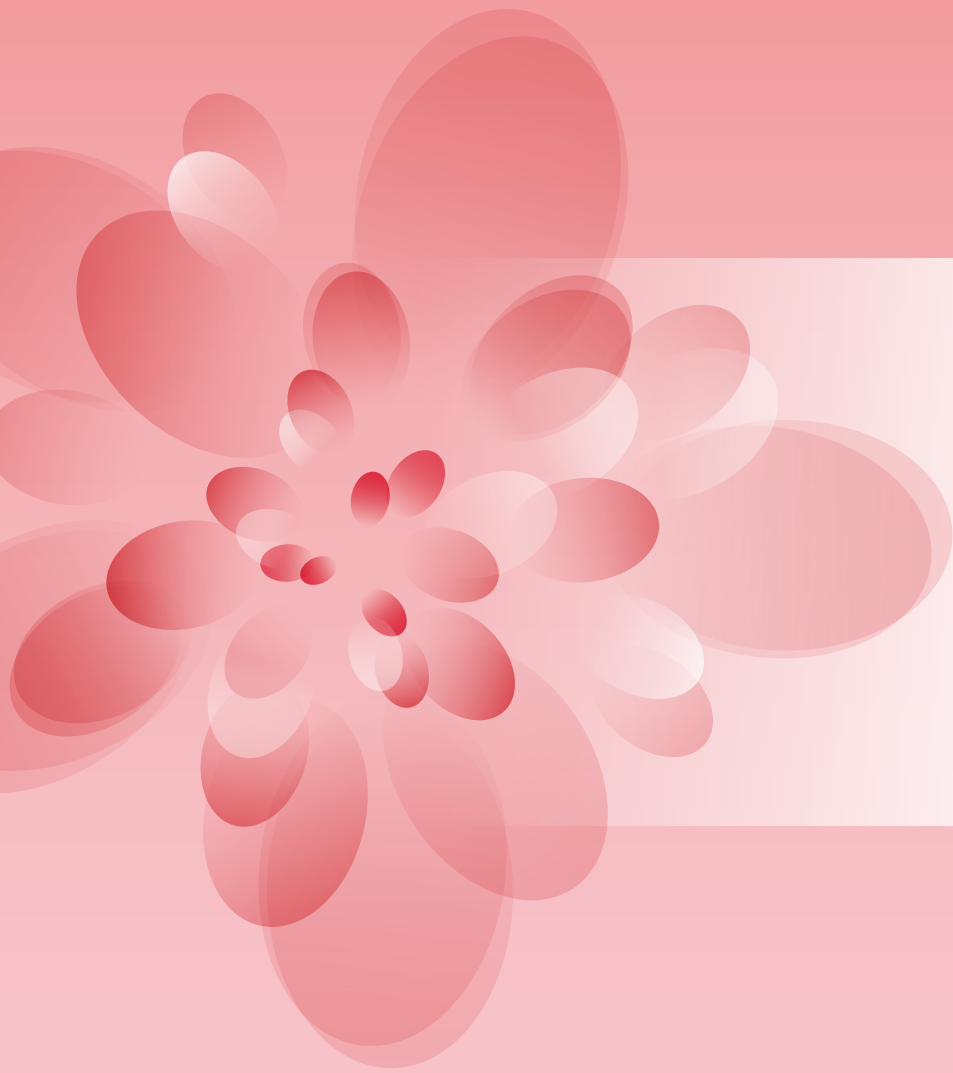


Okayama

Okayama Committee for
UNESCO World Conference on ESD
Official Report



I

会議概要

I

1. 世界会議開催までの主な経緯

平成14年12月	ユネスコ本部に対して、岡山市環境パートナーシップ事業をモデルとしたプロジェクトを「国連ESDの10年」のプログラムとして世界で実施するよう提案
平成17年 4月	岡山ESD推進協議会(事務局:岡山市環境調整課)を設置し、岡山ESDプロジェクト開始
平成17年6月	国連大学から世界初のRCE(RCE岡山)に認定
平成21年4月	「国連ESDの10年・中間会合」(開催地:ドイツ・ボン)において、平成26年に日本で「ESDに関するユネスコ世界会議」を開催することが決定
平成22年2月	岡山ESDプロジェクトが日本計画行政学会第13回計画賞「優秀賞」受賞
	岡山市ESDウィーク開始
平成22年秋	岡山市が「世界会議」誘致の可能性について検討開始
平成22年10月	岡山市が生物多様性条約第10回締約国会議サイドイベント出展、生物多様性国際自治体会議参加
平成22年12月	岡山市が国際生物多様性年クロージングイベント参加・調査
平成23年1月	岡山市が石川県のクロージングイベント誘致について調査
平成23年2月	岡山市長が記者会見でESD国際会議誘致を表明
	第1回「国連ESDの10年・総括会議」誘致推進委員会(岡山市庁内組織)開催
平成23年3月	岡山市副市長が文部科学省へ施設等の条件について要望(岡山市長代理)
平成23年4月	岡山市長が要望活動(文部科学省、環境省)
	文部科学省が世界会議開催地公募について公表
平成23年5月	岡山開催を実現する会発起人会開催
平成23年6月	文部科学省から岡山市に開催誘致希望照会
	「岡山開催を実現する会」設立総会開催
	岡山市が開催誘致希望を回答(正式な立候補)
平成23年7月	「実現をする会」関係者で要望活動(3回)
	文部科学省に対して、岡山市の「最終年会合開催のための施設等の必要条件」について回答
平成23年8月	「実現をする会」関係者で要望活動(1回)
	7自治体が文部科学省においてプレゼンテーション(北九州市、大分県、岡山市、神戸市、愛知県・名古屋市、浜松市、北海道・札幌市)
平成23年9月	文部科学省が追加調査実施
	文部科学省が「開催地選定委員会」開催(8月以降4回)、関係省庁連絡会議開催
	関係省庁連絡会議で岡山市と愛知県・名古屋市が最終年会合の開催地に決定
平成24年2月	「岡山開催を実現する会」を改組し、実行準備委員会を設立
平成24年4月	岡山市に「ESD最終年会合準備室」を設置
平成24年6月	「ESD Rice プロジェクト アジア・ワークショップ」開催(主催:ユネスコ、ユネスコアジア文化センター／共催:文部科学省、岡山市)



平成24年8月	ユネスコスクール世界大会に参画する高校生・教員の養成開始
	文部科学省が岡山市で開催される主な会議の日程、名称等を公表
平成24年9月	岡山市長等が韓国・統営市で開催されたグローバルRCE会議に参加し、参加者と交流すると共に、会議運営状況等について調査
平成24年10月	「ESDウィーク2012」を展開してESD関連イベント・会議を開催(10～11月)
	岡山市長、岡山市議会議長等がユネスコ本部を訪問し、関係者と意見交換・協議
平成24年11月	「ESD全国学び合いフォーラム」開催(主催：環境省、岡山市)
	岡山国際セミナー「持続可能な地域づくりのための企業とのパートナーシップ」開催(主催：(一社)イクレイ日本、岡山市、岡山ESD推進協議会)
	ユネスコスクール世界大会岡山運営協議会設立
平成24年11月	ユネスコ本部が開催地を視察
平成25年1月	公民館・CLC会議実行委員会設立
	ESDに関するユネスコ世界会議岡山支援実行委員会設立
平成25年4月	「岡山市のESD最終年会合準備室」を「ESD世界会議推進局」に組織変更
平成25年6月	「ESD-J全国ミーティングin岡山」開催(主催：NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議／共催：岡山市)
平成25年9月	「おかやまESDウィーク2013」を展開してESD関連イベント・会議を開催(9～12月)
平成25年10月	「地域－学校連携ESD国際ワークショップ」開催(公民館・CLC会議 プレ会議)
	「ESDの10年・地球市民会議2013」開催(主催：文部科学省、日本ユネスコ国内委員会／共催：岡山市 外)
	「ESDテーマ会議2013」開催(主催：「ESDの10年・世界の祭典」推進フォーラム／共催：岡山市 外)
平成25年11月	岡山市長がユネスコ総会で岡山市の世界会議開催等をPR
平成26年1月	ユネスコスクール世界大会高校生フォーラム「岡山プレフォーラム」開催
平成26年6月	未来へつなぐメッセージキックオフイベントでもある世界会議開催半年前イベントとして6月1日岡山市民の日「伝説の岡山マルシェ&もっと知ろうESD」を開催(主催：伝説のおかやまマルシェ実行委員会／共催：岡山支援実行委員会 外)
	支援ボランティア研修を実施(6・9・10月)
	駅南地下道にESD活動をPRするパネル等を展示した「ESDの散歩道」をオープン(6～11月)
	「2014おかやまESDイヤー」を展開してESD関連イベント・会議を開催(6～12月)
平成26年8月	世界会議開催3ヶ月前イベント「こどもエコクラブ&ESDフォーラムin岡山」及びサイドイベント「西川探検隊」が荒天のため中止
平成26年9月	桃太郎大通り、市役所筋、駅前広場等に歓迎装飾を実施(9～11月)
平成26年10月	「ESD推進のための公民館・CLC国際会議」開催
平成26年11月	「第9回グローバルRCE会議」、「ユネスコスクール世界大会」、「ESDウィーク・オープニングセレモニー」、「ユネスコESDユース・コンファレンス」、「教師教育に関する国際会議」開催

I

2.岡山で開催された各種会議の概要

2014年10月9日から11月17日にわたり、以下の会議が開催された。

10月	11/3	11/4	11/5	11/6	11/7	11/8	11/9	11/10	11/11	11/12	11/13	11/14	11/15	11/16	11/17
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
A ESD推進のための 公民館・ CLC国際会議 10/9～12 【岡山コンベンション センター】	文化の日			C ユネスコスクール世界大会 【ホテルグランヴィア岡山・岡山大学】											
		B 第9回グローバルRCE会議【岡山コンベンションセンター】		D ユネスコESD コース・コン ファレンス 【岡山 国際交流 センター】	エキスカ ーション	関係国会合及び全体の 取りまとめ会合 【愛知県・名古屋市】	E 教師教育に関する国際会議 【岡山県総合福祉・ボランティア ア・NPO会館:きらめきプラザ】								
				← ESDウィーク →											

A：ESD推進のための公民館-CLC国際会議の結果概要

- 開催期間：2014年10月9日(木)～10月12日(日)
- 開催会場：岡山コンベンションセンター
- 主催：岡山市、公民館・CLC会議実行委員会、文部科学省
- 参加者：公民館およびCLC関係者、行政関係者、市民団体、国連機関、大学関係者など29カ国から681名(国内578名、海外103名、聴講者を加えると約850名)の参加者。
- 検討された主な議題及び報告
 - 成果文書の作成プロセスについて
成果文書作成委員会の委員長2人による全員参加による成果文書作成プロセスの説明
 - 基調講演
オランダ・ワージェニンゲン大学教授アリヤン・ウォルス氏、インドネシア教育省元副大臣ファスリ・ジャラル氏、神戸大学教授末本誠氏の三氏による基調講演とパネルディスカッション
 - 全体会事例発表
国内事例2例(東京板橋、飯田市)、海外事例3例(タイ、インド、イギリス)の事例報告
 - 分科会
7つの分科会と特別分科会。分科会ごとに4～6本の事例報告、成果文書作成に關係する討議。第1分科会から第5分科会までは地区公民館を会場として行い、地元の方のご協力で、昼食等のおもてなしや公民館活動の見学による交流活動を実施した。
 - ◇分科会1 環境保全(藤田公民館)
 - ◇分科会2 防災・減災(御津公民館)
 - ◇分科会3 収入向上・社会的起業・地域活性化(西大寺公民館)
 - ◇分科会4 文化の多様性と対話・世代間交流(東公民館)
 - ◇分科会5 リテラシー(京山公民館)
 - ◇分科会6 エンパワメント(岡山コンベンションセンター)
 - ◇分科会7 政策・マネジメント・スタッフの能力向上(岡山コンベンションセンター)
 - ◇特別分科会 文科省の「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」の中間発表会(岡山コンベンションセンター)



(5)分科会報告

各分科会のファシリテーターによる報告とまとめ

(6)成果文書検討ワークショップ

公民館とCLCのネットワーク提案、作成された成果文書案についての討議

(7)成果文書採択

最終成果文書案の提示と採択

6. その他行われたプログラム

(1) 歓迎レセプション(10月9日 岡山コンベンションセンター)

(2) フェアウェルパーティー(10月11日 岡山後楽園)

(3) エクスカーション(10月12日 4コース)



7. 会議の成果

(1) 本会議の議論および岡山コミットメント2014を通して、公民館やCLCなど地域に根ざした住民全体の学びの場は、活動内容や文化背景は違っても共通して、持続可能性に関わる様々な分野において重要な役割を果たしていることや多様なステークホルダー間をつなぐ役割を持っていることなどが確認され、今後もESDをテーマとして連携を深めていくことが合意された。

(2) 全大会及び分科会における全員参加型の活発な討議と関係者の尽力により、成果文書「岡山コミットメント」を採択することができた。

岡山コミットメント2014(要旨)

1. 公民館-CLCにおけるESDの重要性とESDにおける公民館・CLCの重要性に対する認識を広める。
2. コミュニティ間および問題解決の当事者同士が「実践の共同体」を創り出し、戦略的な連携を強く維持する。
3. 資料センターの創設やネットワークの構築を通してESDの先進事例を発掘・共有する。
4. コミュニティで疎外されている人々に対して柔軟で生活に即した学びの機会を提供する
5. 総合的で明確な政策が策定されるよう政策当局に働きかける

「岡山コミットメント2014」より一部抜粋

B：第9回グローバルRCE会議の結果概要

- 1.開催期間：2014年11月4日(火)～11月7日(金)
- 2.開催会場：岡山コンベンションセンター
- 3.主 催：国連大学サステイナビリティ高等研究所、岡山ESD推進協議会、岡山市
- 4.参 加 者：世界の129RCEのうち、68RCEが参加(参加国数46カ国1地域(日本を含む。))、参加者総数272名(うち、海外から164名、国内108名)

5.検討された主な議題及び報告

- (1)各大陸毎(アフリカ、南北アメリカ、欧州、アジア・太平洋)の課題への対応
- (2)横断的課題(能力開発、政策推進、モニタリングと評価、ガバナンスなど)
- (3)個別課題(気候変動、持続可能な生産と消費、生物多様性、高等教育、若者の参加など)
- (4)政策決定者による円卓討議(岡山市長参加)
- (5)RCEアワード(5分科会 RCE岡山発表)

6.その他行われたプログラム

- (1)歓迎レセプション(11月4日 岡山全日空ホテル)
- (2)フィールドトリップ(11月6日 岡山城・岡山後楽園)
- (3)フェアウェルパーティー(11月7日 ホテルグランヴィア岡山
※ユネスコESDユース・コンファレンスと合同で実施)
- (4)エクスカージョン(11月8日 8コース)



7.会議の成果

- (1)「岡山モデル」として岡山市のESDの取組を紹介し、海外参加者からも高い評価を得た。
- (2)本会議では、「2014年以降のRCEとESDに関する岡山宣言」(以下「RCE岡山宣言」という。)を以下のとおりとりまとめた。RCE岡山宣言は、名古屋市で開催されたESD世界会議で報告された。

RCE岡山宣言(要旨)

1. RCEは、「国連持続可能な開発のための教育の10年」(2005年-2014年)以降もESD活動を推進していく。
2. RCEは、ユネスコのグローバル・アクション・プログラムにおける5つの優先事項(政策の推進、学習・研修環境の整備、教育者の能力向上、若者育成、地域活動のさらなる推進)の全てにおいて主導的役割を果たす。
3. 国連における「持続可能な開発目標」の実施に貢献する。
4. RCE活動の更なる充実、質の向上に努める。

- (3)会議参加者が岡山市立学校児童生徒によるESD実践発表に参加し、岡山市内の児童生徒が、海外の参加者とふれあい、ESDについての関心を高めることができた。



C：ユネスコスクール世界大会の結果概要

高校生フォーラム

- 1.開催期間：2014年11月6日(木)～11月7日(金)
- 2.開催会場：ホテルグランヴィア岡山
- 3.主 催：ユネスコ、文部科学省、日本ユネスコ国内委員会
- 4.参 加 者：世界の31か国から31チームと、日本国内9チームの合計40チーム200名(1チームにつき高校生4名と教員1名)が会議参加者として参加。運営スタッフとしての高校生・教員・大学生約600名(大阪ASPnet200名、岡山県内400名)とオブザーバ約100名を併せた合計約900名。



5. 検討された主な議題及び報告

- (1)各チームよりそれぞれのESDの実践をプレゼンテーション発表
- (2)2つの議題に分かれてディスカッション
ディスカッションAのテーマ「日常生活や社会において持続性を阻害しているものは何か」
ディスカッションBのテーマ「持続性を促進するために重要なものは何か」
- (3)全体ディスカッション
テーマ「持続可能な社会や未来を創るために、ASPnetの高校生として共に目指すべきものは何か」
- (4)宣言文起草委員会により作成された宣言文(案)を採択

6. その他行われたプログラム

- (1)地域交流会(11月4日～5日)
ルーマニア…岡山学芸館高等学校
ウガンダ…岡山県立倉敷商業高等学校
メキシコ…岡山県立岡山一宮高等学校(フライトキャンセルにより2日目のみ実施)
フィリピン…清心中学校、清心女子高等学校
※上記4チームと受け入れ校4校及び岡山県立和気閑谷高等学校の生徒・教員で夕食交流会を実施。
- (2)オープニングセレモニーへ参加(11月6日 岡山シンフォニーホール)
- (3)交流会(11月7日 岡山コンベンションセンター)
- (4)エクスカッション(11月8日 5コース)

7. 会議の成果：ユネスコスクール世界大会の高校生フォーラムとして共同宣言が採択された。

高校生フォーラム共同宣言(要旨)

1. 共に助け合い持続可能性について学び合う機会を大切に、ESDについて発信していこう。
2. 一人ひとりが地球に生きる一員としての自覚を持ち、環境と周りの自然を意識し、学校でESDが教えられるようになるために責任ある行動をとろう。
3. 様々な生活様式や文化と意見を共有・尊重し、学び合いや知的な刺激を促進しよう。
4. コミュニケーションを更に深め、平和と人権と教育によって個人が成し遂げられるものを知ろう。このことには男女平等、人権、平和と啓発が含まれる。これら全てにおいて、教育の果たす重要な役割を意識しよう。
5. 上記の全てを全員が意識して、個人の明確な目標を明らかにするよう全力を尽くそう。

教員フォーラム

1. 開催日：2014年11月7日(金)
2. 開催会場：ホテルグランヴィア岡山
3. 主催：ユネスコ、文部科学省、日本ユネスコ国内委員会
4. 参加者：高校生フォーラムに参加したチームの教員40名、ファシリテーター、オブザーバーなど約100名が参加



5. 検討された主な議題及び報告

(1) テーマごとに議論 16:10～17:30

テーマA：ESDにより達成できたものはなにか？

テーマB：2014年以後ESDの推進をするために教師やASPnetが果たすべき役割や行動とはなにか？

(2) 全体会

※このあと、日本ユネスコ国内委員宣言起草ワーキンググループを中心に起草委員会が開かれ、翌日の「全国大会」で宣言文の骨子が作成された。

全国大会

1. 開催日：2014年11月8日(土)
2. 開催会場：国立大学法人岡山大学津島キャンパス
3. 主催：文部科学省、日本ユネスコ国内委員会
4. 参加者：学校関係者、教育委員会、保護者、地域の人々、NGO/NPO、企業、大学、専門機関など関係者約1,000名が参加。



5. 検討された主な議題及び報告

(1) 全体会I

- 第5回ESD大賞授賞式 岡山市立京山中学校 事例発表
- 国内交流の実践発表 多摩市立東愛宕中学校・多摩市立多摩永山中学校・岡山市立京山中学校・気仙沼市立大谷中学校
- 海外交流の実践(ジャパンアートマイル)
- ESD Riceプロジェクト

(2) 分科会I テーマ別交流研修会(22の分科会に分かれて実施)

岡山市からは2つの分科会を担当した。

(3) 分科会II ESD博覧会

- 学校によるESD実践事例のポスター発表
- ESD推進企業・団体による展示ブース・プレゼンテーション

(4) 全体会II

- 宣言最終案発表



学校によるさらなるESD推進:ユネスコスクールからの提案

ESDの推進拠点としてのユネスコスクールの経験、成果と課題にもとづき、私たちのコミットメントをより良く実現するために、また、ESDをユネスコスクール以外の学校へ、地域へとひろげていくために、ユネスコスクールとすべての学校、その支援者に向けて、以下を提案します。

- 教師や子どもたちの主体的な発意やアイデアを尊重し、創造的な授業づくり、教科横断的で探究的な教育課程づくりによって学校全体でESDをすすめる。
- ESDを通した子どもたちの学びの質や育ちを内発的に評価する方法など、ESDの成果をモニタリング・評価するための方法を検討し、共有する。
- 各学校のESDを持続的に支える政策や制度づくり、ESDにふさわしい校長のリーダーシップが発揮できる基盤を整備する。
- 教師や教育関係者が自らの専門性を生かしながらグローバルな視野で持続可能性についての認識を深めるための研修制度を拡充させていく。
- 地域において、学校を含む多様な主体が持続可能な社会づくりに参加し連携できる仕組みをつくる。

(「ESD推進のためのユネスコスクール宣言」により一部抜粋)

D：ユネスコESDユース・コンファレンスの結果概要

1. 開催日：2014年11月7日(金)
2. 開催会場：岡山国際交流センター
3. 主催：ユネスコ、文部科学省、
日本ユネスコ国内委員会、
公益財団法人五井平和財団、岡山市
4. 参加者：世界48か国から73名(海外から47名、国内26名)
オブザーバーボランティア23名
(国内参加者に含む)



5. 検討された主な議題及び報告

◇メインテーマ：ESD推進のためにユースをどのように動員していくか

▶サリー・アスカー氏(インサイト・サステナビリティ)の基調講演とマハトマ・ガンジー平和・ESD研究所からのプレゼンテーションの後、次の8分科会に別れた討議とメインテーマについてグループ討議が行われた。その成果は全体会で報告され、ステートメントにも盛り込まれた。

- ①政策的支援
- ②機関包括的アプローチ
- ③教育者・トレーナー
- ④ユースのための革新的な学び
- ⑤地域コミュニティ
- ⑥持続可能性に関する課題
- ⑦ソーシャル・アントレプレナーシップ(社会起業)
- ⑧女性や社会的に不利な立場に置かれている人々

6. その他行われたプログラム

- (1) プレ・コンファレンス(11月6日 岡山国際交流センター)
- (2) フェアウェルパーティー(11月7日 ホテルグランヴィア岡山
※第9回グローバルRCE会議と合同で実施)
- (3) エクスカーション(11月8日 4コース)

7. 会議の成果

- (1) 会議の結果を受けて作成メンバーによる作業により以下のステートメントが作成され、参加者によって採択された。このステートメントは世界会議で配布されるとともに、参加者の代表が全体会のパネリストとして登壇しその内容を反映させた。

ユース・ステートメント(要旨)

ESDは社会に活力を生み出す方法であり、教育に欠かせない要素。ESDなしでは前進できない。ユースはESDアジェンダに欠かせない役割を果たす。そのため、手を取り合いユースを支援し、動員していく必要がある。そのために提言する。

1. 政策の立案、実行、評価にユースに積極的な関与を確実なものにすること。
2. ユースを対等なパートナーとして認め、教育機関の運営をより持続可能なものに変化させる。
3. すべての市民がESDのファシリテーターになり行動する可能性と責任を自覚すること。
4. コミュニティ主導型のESDの取り組みにユースの声を尊重すること。 等

- (2) 会議を通して、また岡山支援実行委員会が行ったオープニングセレモニー、フェアウェルパーティーやエクスカッション、さらには石山公園での「ワールドキッチン」へも参加し、岡山の魅力に触れるとともに、人々とも交流できた。また、愛知県名古屋市での世界会議の昼休みに分科会を独自開催するなど、若者同士の絆が一層深まり、ネットワークが強まった。
- (3) 地元岡山から多くのオブザーバーボランティアが参加し、海外からの参加者をサポートするとともに交流を深め、ESD推進の担い手としての自覚が高まった。

E：教師教育に関する国際会議の結果概要

1. 開催期間：2014年11月14日(金)～11月17日(月)
2. 開催会場：岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館
(きらめきプラザ)
3. 主催：国際教師教育ネットワーク
(International Network of Teacher Education Institutions)(略称:IN)
4. 共催：ユネスコ、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(略称:ASPUnivNet)、岡山市
5. 参加者：IN会員、ASPUnivNet加盟大学関係者、教員養成及び国際理解に係る市内大学の教員が参加(参加国数39カ国(日本を含む。))、参加者総数93名(うち、海外から59名、国内34名)



6. 検討された主な議題及び報告

- (1) 「国連ESDの10年」における各組織・各地域(アジア・太平洋、欧州・北アメリカ、アフリカ、ラテンアメリカ・カリブ地域)の活動成果と課題に関する報告
- (2) 各地域の特性に基づく、グローバル・アクション・プログラム(2015年以降のESD推進の国際的な枠組み)の推進方策に関する討議
- (3) 個別課題(生物多様性や気候変動、防災、地域文化の継承に関するESDの役割、教育分野別・地域単位等でのESD推進方法、行政機関等との連携によるESD推進体制、教員の能力開発、評価方法、教員養成機関の役割等)に関する討議



7. その他行われたプログラム

(1) 歓迎レセプション

(IN主催、11月14日 Sports Café 12)

(2) フィールドトリップ(11月17日 三軒小学校、光南台中学校、清心女子高等学校、岡山県自然保護センター、西川・桃太郎大通り・岡山城)

(3) Banquet(お別れ会)

(岡山市主催、11月17日 サン・ピーチ岡山)



8. 会議の成果

(1) 4日間における会議での様々な討議や参加者間の情報交換等を踏まえて、今後2年間で、参加者が、各国・各組織の特性に基づいて取り組む事項を、「コミットメント」としてまとめて、IN事務局に提出した。また、このコミットメントについては、次回の会合で検証することを申し合わせた。

(2) 各国の教師教育分野においてESDを牽引するとともに、国際的に活躍している研究者等が集い、「国連ESDの10年」以降の国際的なESDの枠組みであるグローバル・アクション・プログラムの推進に関する最初の重要な国際会議が開催されたことは、今後とも、リーダーシップを発揮しながら、ESDの推進に貢献していくことを目指す本市の立場を世界に発信することができた。

9. 参加者の声等

- ・市内外の学校教育施設や環境学習施設への訪問や、「お別れ会」に出演した高校生との交流等を通じて、ESDを通じた市民との交流ができた。
- ・学生スタッフをはじめ、会議支援を支えた関係者のおもてなしに感謝の言葉を多数いただくとともに、市内の良好な自然環境や環境美化等について、多くの賞賛をいただいた。